



新環境センターニュース Vol. 3

令和3年1月発行 大分都市広域圏推進会議 一般廃棄物処理施設整備部会
(問い合わせ先：大分市環境部清掃施設課 097-537-5659)

新環境センターは令和9年度稼働開始を目指しています



ごみを処理する規模ってどのくらいなの??

ここ数年のごみ排出量を基に、将来に発生するであろうごみの量を予測して決定します。

可燃物処理施設は、広域6市（大分市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市）のごみを対象としているので、6市のごみ量を足した数値でごみ処理能力（施設規模）を設定しています。



施設規模設定の考え方

令和9年度に発生するであろうごみ（生活ごみ等）の排出量に加え、災害が発生した場合に一定量を処理することを見込んでいます。

概算数値	大分市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後大野市	由布市	合計
ごみ排出量(予測)	146,000トン	9,000トン	4,000トン	5,000トン	10,000トン	11,000トン	185,000トン

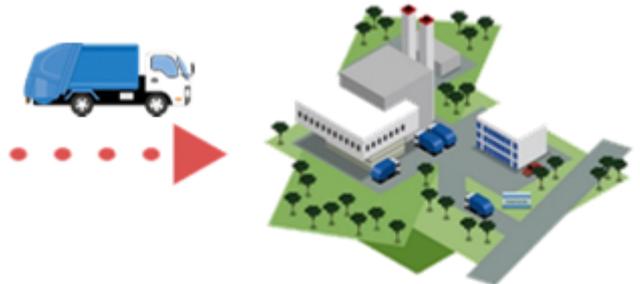
国が炉や機械等に対する定期的な整備・補修・点検の期間や全停止期間、そして、やむを得ない事情による一時休止のため期間を考慮して施設規模を設定するよう定めており、その計算式に基づいて計算すると・・・



概算数値	大分市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後大野市	由布市	合計
施設規模	544トン/日	33トン/日	15トン/日	19トン/日	37トン/日	40トン/日	688トン/日
割合	79%	5%	2%	3%	5%	6%	100%



6市の市民一人が一日あたり
に排出するもえるごみの量
約454g



大分市のごみ組成を参考とした場合

未使用食材の
使い切り

約22g削減

生ごみ水切り

約40g削減

資源物の
適正分別

約70g削減

ごみを減らしたり、
適切な分別の結果

- 1 処理の際に発生する二酸化炭素を削減
- 2 紙類や資源プラスチックの有効活用（再資源化）
- 3 ごみ処理施設建設やごみ処理に係る費用の削減

皆様にごみ減量にご協力いただくことで、適切な施設規模で施設整備を行いたいと考えています。
なお、施設規模は、直近のごみ量を勘案する中、令和3年度に変更（確定）する予定です。

◎ 今後の事業スケジュール（案）

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
環境影響評価							
用地取得			設計・建設工事				
			事業者選定				
							稼働開始

～ 裏面に続く ～



新環境センター付帯施設等について

ごみ処理施設では、ごみを燃やす際に発生するエネルギーを利用して、電気や熱（温水）を作ることができます。

国として、このエネルギーを利用して『地域のエネルギーセンター』としての活用を掲げています。

《余熱利用イメージ》

《ごみ処理施設内で利用》

《国の計画イメージ》



新環境センターにおいても、この計画を踏まえる中、地域の方々にとって必要な施設を整備するため、地域の自治会役員等で構成する「新環境センター付帯設備検討委員会」を地域主体で発足いただきました。

この委員会で新環境センターに併せて整備する施設や設備、機能及びあり方等を検討いただいています。

引き続き委員会で検討いただき、検討結果について整理したものを市へ提出いただく予定です。



▲ 新環境センター付帯設備検討委員会 検討風景

委員会において整備を計画している内容（案）
 温浴施設、ウォーキングプール、環境学習館、市民憩いの場等

◎ 他市参考事例



⇒ 今回のまとめ

- ごみ処理施設の規模（処理能力）はここ数年のごみ排出量を基に、将来に発生するであろうごみの量を予測して決定します
- 一人ひとりがごみ減量に取り組むことで、施設規模を縮小することができ、環境への配慮や費用の削減につながります
- 余熱等を利用した施設は地域の方々の意見を踏まえて検討していきます

